

# やる気と感動

学校だより19号  
平成29年  
11月29日(水)

## 感動の音楽発表会 南部中の誇り高き文化を発展

最後の合唱曲、三年生の学年合唱『ひとつの朝』が終わり、会場は大きな拍手と感動に包まれました。全員が表情豊かに体全体を使って、『新しい大地へ向かって、力強くはばたいていこう!』という決意を見事に表現したものでした。一・二年生の学年合唱も、南部中の伝統文化をしっかりと継承していこうという意志と、学年の一体感が感じられる見事な演奏でした。三週間足らずの短い取り組み期間の中で良くここまで仕上げてきたと感心し、生徒達をととても誇らしく感じました。

今年度もみんなで創り上げた合唱は素晴らしいものでした。それは学級や学年の生徒と先生方のみんなで創り上げてきたからだと思います。昼休みやちょっとした時間を使い自主練習をしたり、技術的な面もアドバイスし合えるようになったり、学級間・学年間で練習会や交換会を実施したり、取り組みが進むにつれてより主体的になり活動自体が充実してきたと思います。『みんなが本気になる』ために合唱委員や、学級・学年役員などが先頭に立ち、取り組んできました。時には衝突する場面や悔しい思いをする場面もあったはずですが、それを乗り越えてきたから得られた、ハーモニーであり感動であると思います。

最後に講師の芦澤真一先生が、テノール独唱『小さな空』を演奏してくださいました。間近での演奏は、その迫力と響きが体全体に伝わってくる素晴らしい歌声でした。『本物』を体感できた貴重な機会でした。

市川高校の合唱部の皆さんや芦澤先生の事前講習会も、みんなの『やる気』を引き出してくれたと感じています。また総勢250名を越える、保護者、家族、卒業生、地域の方々が応援に来てくださり、皆さんを支えてくださったことへの感謝も忘れないでください。

### <講師；芦澤真一先生の講評>

とても素晴らしい発表会で感動しました。全体的に息継ぎをもっとゆったりと深くできるようになると、さらに良くなると思います。三年生の学級合唱は、2曲とも今までいろいろな中学校で聞いた演奏の中で、一番素晴らしい演奏でした。優勝を決めるコンクールでなくて良かったと思うほど、素晴らしいできでした。卒業まで合唱を楽しんでください。

### <以下、学年合唱(二曲目)への講評を掲載します。>

一年生；とても難しい曲ですが、よく歌えていたと思います。自分のパートを歌うことに一生懸命になりすぎず、他のパートをもっと聞いてあげると良いと思いました。一年生らしい元気いっぱい合唱、とてもすてきでした。

二年生；福島県の同じ年代の子どもたちの気持ちに寄り添って、同じ年代にしか歌えないすてきな群青でした。テンポや言葉のしゃべり方にもう少したっぷりした感じが出てくるともっと良くなると思いました。

三年生；南部中をしっかりとひっばっていている三年生！感動しました。指揮、伴奏もとても良かったです。すてきな合唱をありがとうございます。

創立7年目の音楽発表会は、輝城祭での合唱のレベルを越え、南部中の誇り高き文化を継承・発展し、揺るぎない伝統になったと感じました。一・二年生は来年度も今年を越える合唱を目指して、さらに頑張ってくれることでしょう。三年生の感想発表で、これから受験に向かう決意を表せた点も評価したいと思います。

この音楽発表会の成果を、今後の学校生活、部活動、受験勉強に、そして一人一人の心の成長へと結びつけていくことが、これからの課題であり、大きなチャンスでもあります。

保護者、ご家族の大勢の皆さんの応援ありがとうございました。また、学校運営協議会や卒業生、地域の皆さんにもお越しいただき、お褒めの言葉をいただきました。250名を越える方々に見ていただけたことは、生徒にとっても学校にとってもとても大きな励みになりました。心より感謝申し上げます。